研究テーマの見つけ方

−あなたの研究がたどる道を想像する−

先行研究に位置付けることで導かれた研究テーマは，社会的意義や学術的意義を有し，自分なりに研究のオリジナリティも認識できています。やっとのことで見つけた研究テーマにいざ取り組んでいこう・・・研究に取り掛かり始めたその時，「どう研究を進めてよいのかわからない・・・」と立ち止まってしまう研究初学者がいます。この連載は「研究テーマの見つけ方」ですが，最後となる本稿では少し足を延ばして，研究テーマが見つかったはずなのに研究に取り掛かることができないという躓きに焦点をあてたいと思います。

本来，明確な研究テーマが設定できていれば，研究方法は自ずと決まってきます。実際に，研究を行ってきた人であれば，研究テーマを設定して研究し始める段階で，いくつか想定される研究方法のうち，適切な方法がどのような方法で，その方法を選択することでどのようなデータが得られ，そのデータをどのように分析していくか，といった研究プロセスを具体的にイメージすることができます。しかし，研究初学者はそうした一連の研究プロセスを想像することに困難さを抱えがちです。もしも，設定された研究テーマからこうした研究プロセスを導けないとするならば，その研究テーマは明確になっていない，すなわち，研究テーマが見つかったとはいえない可能性があります。

こうした研究プロセスに関する想像力を獲得するには，研究経験の蓄積が近道です。しかし，当然のことながら研究経験が少ないからこその研究初学者です。そうした研究経験の少ない初学者が，研究経験を補うためにはどうすればよいのか，その鍵は先行研究の読み方にあります。もちろん，研究テーマを見つける過程で，自分の研究テーマの位置付けを行うためたくさんの先行研究に目を通して来たはずです。しかし，ここで求められるのは，先行研究を読む際，自分で実施することを具体的に想像する読み方です。もしも先行研究の研究テーマや目的を読んで，自分で実施することを想像できないのであれば，それまでの先行研究の読み方に課題を抱えているかもしれません。

たとえば，先行研究を読む際，問題・目的・方法・結果・考察から構成されている学術論文の問題・目的・考察が比較的理解しやすいからとその部分的な知識

で研究テーマを設定した人は，研究を始める段階で立ち止まってしまうでしょう。実際に研究を行う際のプロセスを示す方法・結果の理解が十分でないということは，研究テーマがどのような研究方法で検討でき，どのような分析をしてその分析結果をどのように解釈できるかなどの知識を十分に有しているとはいえません。その場合，先行研究を自分で実施するという想像はできず，研究プロセスが想定できる研究テーマも当然見つけられないはずです。

こうした研究プロセスの理解には，専門的な知識が不可欠ですし，研究をする限り，これらの知識は獲得していかなければなりません。とはいえ，すべての研究プロセスを理解してから研究を始めるというのは現実的ではありません。その時に注目したいのが，先行研究における仮説の言葉遣いです。たとえば，特定のキャリア支援の効果を検証することを研究テーマとして掲げているとします。自分のテーマを先行研究に位置付けるためキャリア支援の効果測定に関する先行研究を読んでいると，同じ効果測定というテーマを掲げていたとしても「あるキャリア支援を受けた群は受けなかった群よりその効果は高い」や「あるキャリア支援をより多く受けているほどその効果は高い」など仮説における言葉遣いの違いをみてとれます。そしてその後続く分析方法・結果のまとめ方も異なることがわかるかと思います。すなわち，明確な研究テーマを見つけられているのであれば，先行研究と同様の研究プロセスで進めていくことができる仮説が立てられるはずです。

裏を返せば，先行研究で一般的な仮説と同様の言葉遣いで自分の研究テーマの仮説を立てられないとすれば，明確な研究テーマでなかったり，分析方法はあるかもしれないけれども一般的でない高度な研究方法を必要としたりといった事態に陥りかねません。高度な研究方法は，一般的な研究方法が基礎となっていますし，研究プロセスの想像ができないうちは，特定の研究分野で一般的な仮説の言葉遣いを参考に自分の研究テーマを設定し，一般的な研究プロセスを採用することをお勧めします。そうすれば限定的な研究プロセスの理解で研究の躓きを回避できます。なお，探索的な研究など仮説が明確に立てられていない先行研究もあります。その場合，結果をまとめる際に用いられている言葉遣いに沿うことで，研究プロセスを見通すことができる研究テーマを見つけることができるでしょう。

今回の連載で，「研究テーマの見つけ方」について，まずテーマに関する自分の興味を拡散し，自分が行う研究で重視する研究アンカー・マップを理解したう

えで，先行研究を通して自分の研究テーマを研究の世界に位置付けて，これから進めていく研究プロセスを明確に想像するという過程を示してきました。こうした過程は，キャリアに関する自分の興味を拡散し，自分が重視するポイントや関連事項を理解したうえで，進みたい世界における自分のキャリアの興味や重視するポイントなど位置付けて，キャリアの選択プロセスを明確に想像するというキャリア意思決定過程と類似していることがわかると思います。このことを勘案すると，研究テーマの見つけ方はこうした過程を知識として理解するだけでは不十分であり，キャリア意思決定と同様，動き始めることも非常に重要だといえます。キャリア研究で注目されている「計画された偶発性」の理論は研究というキャリアにも援用可能です。ぜひともこうした理論で想定されているスキルを活用し，様々な機会を研究を始めるチャンスに変えてもらえたらと思います。

（駿河台大学　杉本英晴）